

# 「職業生活」学習指導案

授業者 檜和田祐介 (T1)  
藤井 朋子 (T2)  
藤永 春子 (T3)  
井上美由紀 (T4)

**日時** 平成24年12月1日(土) 第3校時(13:00~13:50)

**年組** 中学校全学年3組 計21名(男子12名,女子9名)

**場所** 中学校3組各教室

**単元** 「私たちの東雲コーポレーション」～見学会・説明会開催～

## 単元について

今日、特別支援教育において中等教育段階では特に、職業教育、進路指導の充実を図ることが求められている。全教育活動を通じてキャリア教育の視点を踏まえた実践の充実が求められており、その一つの指導の形態として、各校では作業学習が取り込まれている。作業学習は知的障害教育を特色付ける「合わせた指導の形態」の一つであり、特別支援学校学習指導要領解説では、「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである」とされる。

将来の就労を考えると、指導の視点として①「あいさつ、身だしなみ、などの一般的に社会生活でも必要とされるマナー等」②「自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲の高まりや相手を意識できる人間関係の形成力」③「具体的に働くために直接必要となる技能」の3点からの指導が必要であると考えている。特別支援学校高等部等へほとんどの生徒が進学する昨今の現状から、③については就労先それぞれに応じたスキルがあることから、前期中等教育の段階でそれに重点を置いて指導し習得させるよりもむしろ後期中等教育の段階で指導することが効率的かつ効果が高いと考える。すなわち、従来の作業学習の言うところの「作業活動を学習活動の中心」に据えることは、現状に合致しているとは言い難く、むしろ前期中等教育においては、②の働くことに関わる自己有用感や自己効力感等、内的な意欲付を促すことを中心に据えた指導が生徒一人一人の社会的・職業的自立のためには必要であると考えている。

昨年度は作業学習を企業(東雲コーポレーション)に見立て、生徒たちはその一員(社員)として、人に喜んでもらえるよう製品づくりやサービスを意識して学習活動(業務)を進めることで、社会的自立に向け、自己肯定感の高まりがみられることが明らかとなった。一方で、直接作業を伴わないあいさつ、マナー等の指導場面の必要性が指摘された。今年度、これまでの研究の成果を踏まえ、本校では領域・教科を合わせた指導の形態として「職業生活」を創設した。全体(ビジネスマナー)での指導(1時間扱い)と3つのグループ(情報サービス・クラフト・食品加工)に分かれての指導(各4時間扱い)を、原則として毎週火曜日に連続5時間続きで設定し、指導を開始した。

本学級は中・軽度の知的障害特別支援学級である。本校特別支援教育においては、9年間の学びのつながる授業づくりとして、自己肯定感を高めていく中で、自尊感情を育みながら、自信を持たせ、社会的自立にむけた生活力を育成することを研究主題として取りあげ研究を進めている。

学校での進路に関わる学習に加え、地域のサークル活動での職業体験やマナー講習等を経験したり、本学級を卒業した先輩方から職場の話の聞いたり、さらには本校職員で、本学級の卒業生でもある方と共同で学習をしたり、また、進学先として職業コースを検討するなど、就労を意識できる場面は確実に広がっている。本学級の生徒は、学校での学習や生活において意欲を持って取り組もうとしているが、行動が短絡的になったり、他者のことを考えた行動にならなったり、結果として自己中心的となってしまう、協調的な活動は必ずしもできているとは言えない。指示が出るまで待っていたり、発表を促しても失敗を恐れて積極的な言動ができにくかったりと、主体的な活動が不十分である状況がある。また、経験したことを説明したり、質問されたことに適切に受け答えしたりすることに苦手さを感じている生徒も多い。作業を伴うような学習場面では、相手を意識して自分の作業を振り返り、その良し悪しについて意見を述べたり、改善策を考えたりと、仲間と協力し自らの活動を振り返りながら取り組む姿が見られるようになってきている。

昨年度は授業そのものを「企業・東雲コーポレーション」と見立て、作業製品の販売活動を行った。その活動を通じて集団の一員としての自覚を持ち、仲間と協力して作ることの経験も増え、第三者との直接的なかかわりを経験することで、社会的自尊感情を高めてきている。しかしながら、自らの役割が全体の中でどう生かされているのか、他者とのかかわりの中で自らの役割を意識化し果たせるまでにはいたっておらず、継続的かつ戦略的な学習活動が必要と思われる。そこで、個人の能力・スキルを磨くだけでなく、チームとして協働できるような学習活動として「見学会・説明会」を行うこととした。

本学級では6月に「試食会」（マーケティング）を、9月に「工場見学」（社員研修）を扱う校外学習を実施している。指導に当たっては、これらの学習経験を関連付け、実際に見たこと、感じたことをアイデアとして活動に組みこんでいく。学校という制限のある環境の中で、どのような見学会・説明会が可能となるのかを具体的に検討したり、自分たちの力で成し遂げるための手段や手順を検討したりする活動を積み重ねていく。そして、それらを実行していく過程で役割を明確にし、個人の活動をチームでの活動の重要な役割として意識させるよう支援を行う。より主体的な活動となるように支援は徐々に減らしていきながら、それが主体的な活になるよう心掛けるようにする。他者とのかかわりの中で頑張っていることを認める、ほめるといった働きかけをすることによって自己有用感や自己効力感等の経験を積み重ね、自己肯定感を高めていくことで、将来、意欲や責任をもって社会生活に主体的に参加していく姿をめざしたい。

### 指導目標

1. 組織の一員として役割と責任を意識し、その責任を果たすことができるようにする。
2. 学習活動に主体的に取り組ませ、自己を肯定的にとらえられるようにする。

### 指導計画(全10時間)

1. 企画・戦略会議…………… 3時間
2. 見学会開催準備…………… 5時間  
＜販売Ⅰ＞
3. 見学会・説明会開催…………… 1時間（本時）
4. 振り返り…………… 1時間

### 本時の目標

- ・ 集団活動の中で自分の果たすべき役割を理解し、適切な行動を選択することができる。

目標行動	支援の必要な生徒		
	1 学年	2 学年	3 学年
伝えたいことをはっきりと伝える。	②	③	⑦②
自分の役割を遂行する。	⑤	④⑦	⑥
指示内容を理解して言動に移す。	④	②	④
相手を意識したふるまいをする。	③	⑥	①
質問に応じて適切な受け答えをする。	①⑥	⑤	⑤⑧
指示を守って活動ができる。	①	①	⑧

### 学びのつながり」の視点

本校特別支援教育では、自尊感情の積み重ねによって、将来、意欲や責任を持って社会生活に主体的に参加していくことができるという仮説をたて、主として小学校段階では共有体験による基本的自尊感情を育むこと、中学校段階では他者とかかわりによる社会的自尊感情を育むことを意図した授業づくりを行っている。

## 準備物

パンフレット 画像 ポスター アンケート用紙 筆記用具

## 学習の展開

学 習 活 動 (□) と 支 援 (●)				指導上の留意点 (◆評価)
1, 活動内容と役割・目標を確認する (5分)				<p>○司会係メモを用意しておく。</p> <p>○スケジュール表を掲示する。</p> <p>◆自分の役割が意識できているか。</p> <p>○研究会参加者にお客役を促す。</p> <p>○質問に応じて臨機応変に対応できるよう随時言葉掛けをする。</p> <p>◆自信を持って質問に答えることができたか。</p> <p>○接客マナーを守らせる。</p> <p>◆役割が遂行されているか。</p> <p>○発表の中で肯定的な言動があればチェックしておく。</p>
<input type="checkbox"/> あいさつをする。 <input type="checkbox"/> 役割分担と活動場所, 時間設定 <input type="checkbox"/> 目標を音読する。 <input type="checkbox"/> 持ち場に分かれ, 活動を開始する。 ●司会係がスムーズに進行できるよう, 環境づくりを支援する。 ●しっかり聞けるように言葉掛けを行う。(1年①③2年⑥3年①)				
2, ポジションに移動し, 役割を遂行する。(40分)				
<input type="checkbox"/> 代表者が案内する。(展示室→調理作業場→試食会会場)				
<b>&lt;展示室&gt;</b> <input type="checkbox"/> 展示物の説明を行う。 ●緊急マニュアルを意識させておく。 <input type="checkbox"/> 質問に答える。 ●質問の中心を復唱する。 <b>&lt;調理作業場&gt;</b> <input type="checkbox"/> 活動内容を説明する。 <input type="checkbox"/> 質問に答える。 ●質問の中心を復唱する。 <b>&lt;試食会会場&gt;</b> <input type="checkbox"/> スライドショーによって東雲コーポレーションの紹介を行う。 <input type="checkbox"/> 座席に案内し, 試食品とお茶の接待をする。 <input type="checkbox"/> アンケートの記入を促す。 ●緊急事態のマニュアルを意識させる	<b>情報・サービス</b> 3年③⑦⑧2年③⑦1年③④ <input type="checkbox"/> 会場準備 ・机・椅子のセッティング ●動線の確認 ・アンケート <input type="checkbox"/> 用紙の準備  <input type="checkbox"/> 座席に案内 ●マナーの確認 <input type="checkbox"/> アンケート回収 <input type="checkbox"/> 片づけ	<b>クラフト</b> 3年①④⑤2年②⑤1年②⑤ <input type="checkbox"/> エフォーム着用 <input type="checkbox"/> 接客練習 ・声の大きさ ・身だしなみ ●相手を意識した言動 <input type="checkbox"/> 配膳準備 ●位置の確認  <input type="checkbox"/> 接客 ●マナーの確認  <input type="checkbox"/> 片づけ	<b>食品加工</b> 3年②⑥2年①④⑥1年①⑥ <input type="checkbox"/> エプロン着用 <input type="checkbox"/> 試食品の準備 ●手洗い <input type="checkbox"/> 作業開始 ●安全面  <input type="checkbox"/> 片づけ	
3, 説明会を振り返る (5分)				
<input type="checkbox"/> 本時の振り返りを行う。 ●発言内容に対して肯定的なコメントをする。 ●活動の中から全体で共有したい内容を取りあげる。 <input type="checkbox"/> あいさつをする。				

**参考文献** 近藤 卓 『自尊感情と共有体験の心理学 理論・測定・実践』, 金子書房, 2010.  
 エンジニアも知っておきたいキャリア理論入門 松尾 順 2012.  
 小倉昌男 『福祉を変える経営』, 日経 BP, 2003.  
 大山泰弘 『働く幸せ~仕事でいちばん大切なこと~』, WAVE 出版, 2009.  
 本田由紀 『教育の職業的意義—若者, 学校, 社会をつなぐ』 ちくま新書, 2010.